

教員を目指す人たちのアルバイトの特徴とは？

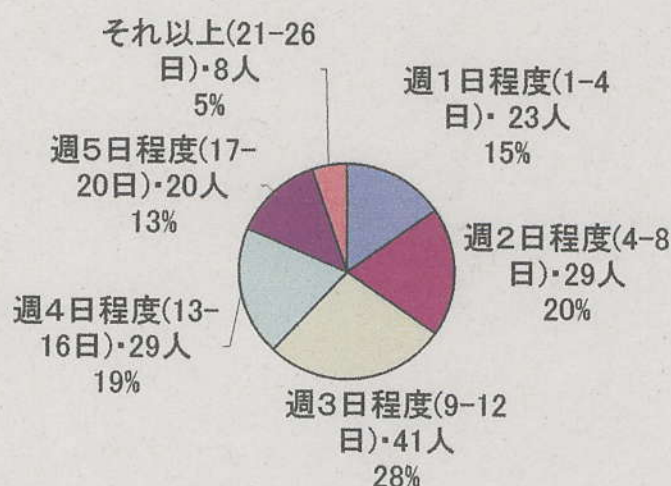
池田 遥

大阪教育大生と、一般の大学生との違いと言え、当然ながら教員を志す人が大勢いるということ。そこで今回、こういった、教員を目指す人は、その他の人たちに比べてどういったアルバイトをしているのか、に注目して分析してみることにした。

◆大阪教育大生のアルバイトの概要

アンケートに回答した時点で、最近1ヶ月の間にアルバイトをしたかどうか質問したところ、80.5%（153人/190人）が「した」と回答した。つまり、5人中4人がアルバイトをしていたことになる。「した」と答えた人について、1ヵ月間にアルバイトをした日数・一ヵ月間の収入金額・職種をみると、以下のとおりであった。

図1 最近1ヶ月のアルバイト日数

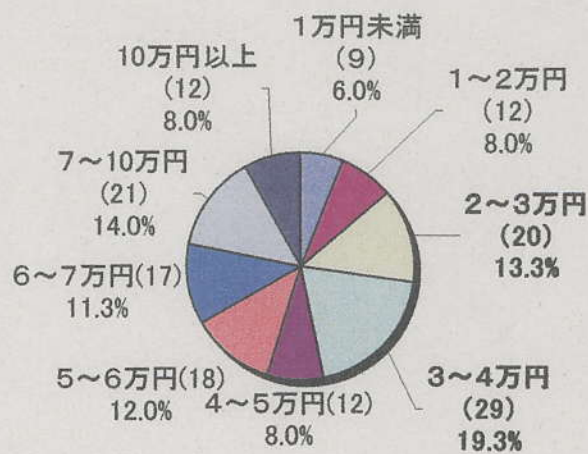


(有効回答数 150 名。不明 3 名を除く)

まず、アルバイトをした日数を聞いたところ、週3回程度（月9～12日）と答えた人が最も多く、27.3%であった。ついで、週2回程度（同5～8日）、週4回程度（同13～16日）がともに19.3%となった。[図1]

さらに、収入に関しては、3～4万円が19.3%、2～3万円が13.3%、5～6万円が12.0%となつて、全体として2万～4万円程度の収入を得ている人が多いことが分かった。[図2]

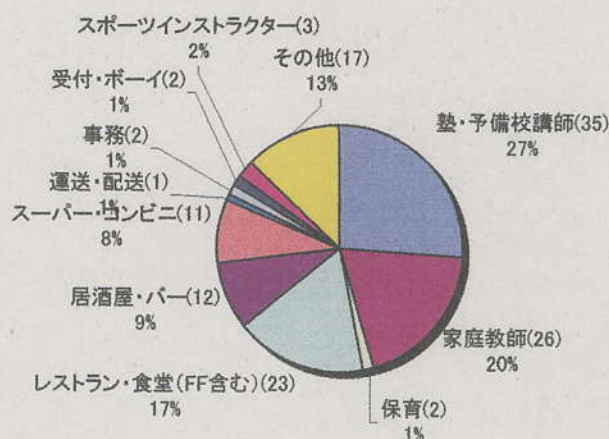
図2 アルバイト収入



(有効回答数 150 名。不明 3 名を除く)

アルバイトの職種についてはどうか。最近1ヵ月でもっとも時間を費やしたアルバイトの職種をたずねた結果をみると、教育大生という特色を反映してか、塾・予備校講師、家庭教師の割合が比較的高くなった。塾・予備校講師、家庭教師の2つを教職に関連する職種とすると、あわせて47.0%と半数近くの人が教職関連の職種と回答したことになる。また、レストラン・食堂、居酒屋・バーといった飲食店のアルバイトの割合も高くなっている。[図3]

図3 アルバイトの職種



(有効回答数 134 名。不明 16 名を除く)

◆教職希望の学生は、教職関連のアルバイトを選ぶ？

大阪教育大学では、教員を目指している学生が多いから、教職関連の職種のアルバイトをしている人が多いといえるのだろうか。

卒業後にどのような進路を考えているかという質問において、「教職志望」「教職志望・教職以外も検討」「教職以外志望」の選択肢を立てて回答してもらった。その回答と、アルバイトの職種との相関を調べた。

以下の表がその結果を表している。

「教職志望」の人は、58.4%が教職に関連のあるアルバイト（塾・予備校講師、家庭教師）をしている。「教職志望・教職以外も検討」「教職以外志望」についてはそれぞれ、40.4%、37.5%となっていて、「教職志望」と約20%の差がある。教職志望の学生は、やはり、教職以外を考えている人に比べて、教職関連のアルバイトを選ぶ傾向があるようだ。

表1 卒業後の進路志望とアルバイトの職種との相関

単位：人(%)

アルバイトの職種	教職志望	教職志望・教職 以外も検討	教職以外志望	その他／ 考えていない	全体
塾・予備校講師	17(35.4)	8(15.4)	7(29.2)	1(14.3)	33(25.2)
家庭教師	11(23.0)	13(25.0)	2(8.3)	0(0)	26(19.8)
レストラン・食堂	6(12.5)	11(21.2)	5(20.8)	1(14.3)	23(17.6)
居酒屋・バー	3(6.3)	6(11.5)	1(4.2)	1(14.3)	11(8.4)
スーパー・コンビニ	5(10.4)	3(5.8)	3(12.5)	0(0)	11(8.4)
それ以外	6(12.5)	11(21.2)	6(24.0)	4(57.1)	27(20.6)
合計	48(100.0)	52(100.0)	24(100.0)	7(100.0)	131(100.0)

(有効回答数 131 名。不明 3 名を除く)

上記のように教員を目指す学生は、教員を目指していない学生より、積極的に教職関連のアルバイトをしていることが分かった。この結果から、教員を目指す学生が多いので、教職関連のアルバイトをする学生の割合も多いということが、言えそうである。

今回は、学内のみの調査であった。他大学との比較ができれば、教員志望の学生が、教職関連アルバイトを選ぶ傾向にある、という関係がより明確になるのでは、と思われる。機会があれば、調査したいと思う。